



①前日に仕掛けた罠にかかったムカデなどを見せる颯田さん ②木の枝でかたつむりを発見。ウイングパークの村岡さん
③大人も楽しんでいます ④誰かが生き物を見つけると皆集まってきました ⑤田んぼにも生き物が！ ⑥カエルを発見

★当日の様子は、テレビはむら・羽村市公式動画チャンネル (YouTube) でも見ることができます。

「羽村のいきもの見つけ隊」は秋にも行う予定です。詳しくは、決まり次第広報はむら・市公式サイトでお知らせします！

「ここに何かいる！」「これは何？」などと歓声を上げます。

杉山さんも参加者と一緒に生き物を探しながら、アプリの使用方法などを説明していきます。

颯田さんは参加者が見つけた生き物について説明したり、仕掛けた罠にかかったムカデやシデムシを見せたり、要所所でサポートし、参加者の関心を高めます。

踊子草公園を探索したあとは、チューリップ公園へ。睡蓮が咲き始めた水面には、希少種のアサザが黄色い花を咲かせていたり、アメンボや蝶、トンボ、アマガエルなどの姿が見られました。

颯田さんは「ムカデやシデムシは生き物の死骸やフンなどを食べます。ということは、この小さな公園にもその元となる生き物がいる。アマガエルは水辺だけでなく、成長すると林のような環境が必要。ということは、アマガエルがいるこの場所には両方が揃っていて自然が豊かということですね。羽村の田んぼは多摩川最上流で、河岸段丘の崖線や里山と呼ばれる環境は非常に貴重です。こういう身近なところから自然環境を守っていくことが、日本の生物多様性を守ることに繋がります」と話しました。

この日投稿されたデータは313件！限られた場所です。これだけの生き物が見られたということは、市内全域ではどれほどの数が見つかるでしょう。

夏休みに、バイオームアプリを活用して、身近な生き物を探してみたいかですか。

羽村の豊かな自然を 実感！

夏休みの
自由研究にも
ぴったり！

羽村のいきもの見つけ隊！

レポート

問合せ 環境政策課内 225

羽村が水や緑に恵まれていることは多くの方が感じていると思います。では、生き物について考えたことがあるでしょうか。

生き物の生態から、生息地の環境を知ることが出来ます。その手助けになるのがバイオーム (Biome) というアプリです。㈱バイオームの杉山 実優さんは「生物多様性はデータ化や状況の把握が難しく、保全がなかなか進まないのが大きな課題です。そこで㈱バイオームでは、世界中で普及しているスマートフォンを使って、楽しみながら生物の写真を集めることで、分布情報などを把握できるアプリを開発しました」と説明します。

スマートフォンに『いきものコレクションアプリ Biome』をダウンロードして写真を撮ると、AIがそれを判定し、種名の候補を示します。写真を投稿することで、「いきものクエスト」という課題の達成を目指したり、自分の投稿をまとめて表示したり、楽しみながら身近な自然について知ることが出来ます。

このアプリを活用して行われたのが、6月15日の「羽村のいきもの見つけ隊！」です。探索地は羽中四丁目の「踊子草公園」と「チューリップ公園」。大人・子ども合わせて20人の生き物好きが、スマートフォン片手に集まりました。

今回は杉山さんのほかに、環境カウンセラーの颯田 耕介さんと、公園等指定管理者のウイングパークの方なども同行しました。

簡単な説明の後、まずは踊子草公園で生き物を探します。最初は遠慮がちだった子どもたちもすぐに慣れて、積極的に生き物を見つけては

バイオームアプリ
ダウンロード

バイオームアプリ
YouTube 使い方動画

BIOME アプリの登録方法と使い方



参加者からひとこと



おうち あつ き ただし
大内 惇義君・正さん親子

惇義君：トンボが見られて良かった！
正さん：カエルのきれいな緑色が印象的でした。次回も親子で参加したいですね。



颯田 耕介さん
(環境カウンセラー)

市内の身近な自然がこんなに豊かであることを、多くの人に知ってもらい、大切にしてほしいです。皆で小動物の調査もしてみたいですね。



杉山 実優さん
(㈱バイオーム事業推進部)

同じ場所でも季節によって見られる生き物が変わります。春から秋にかけては生き物の活動が活発になるので、ぜひアプリを使って探してみてください！